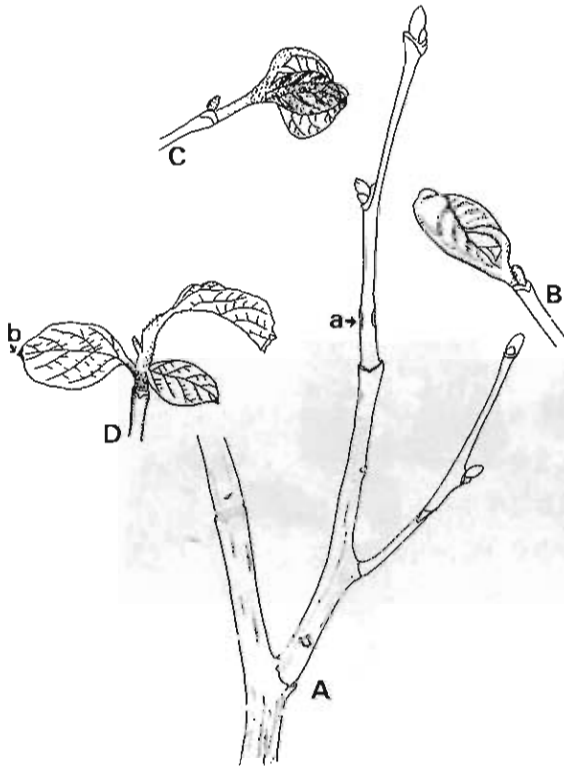


樹木だより

ハクウンボク — 冬芽と開葉 —



ハクウンボクの冬芽は裸芽であり、特殊化した芽りんをそなえていない。外側の2枚の葉が芽りんの役割を果している。これは、開葉の様子をみるとよくわかる (B)。やがて新条がのび出す。3枚めの葉がのび上ってくる時も先の2枚の葉は互いに先端がくっつき合ったままである (C)。まもなく圧力にたえかねたかのように葉が開く。葉のつきかたは互生だが、最初の2枚だけは向き合っている (D)。片一方の葉の先端は袋状になっていて (D-b)、向いの葉の先がここにはさみこまれてしっかりとくっついていたわけだ。

冬の枝をみると、伸びていった様子が痕跡として残されている。Aのaは、最初の2枚の葉の葉痕であり、枝の基部に対になっている。

(造林科 菊沢喜八郎)